

認定こども園 六甲藤原台幼稚園

令和4年度 学校評価

1. 本園の教育目標

- 体の丈夫な逞しい子ども
- ものをよく見、よく聞き、自由に考える子ども
- 明るく伸び伸びと表現する子ども
- 決まりを守り友だちと仲よく遊ぶ子ども
- 真剣に最後までやり通す子ども
- 辛抱の出来る子ども
- 感謝のできる子ども

2. 重点的に取り組む目標と計画

- 子どもが興味を持った遊びを継続できる環境構成（人的・物的）を工夫する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

自己評価結果（達成状況）

【A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった】

評価項目	結果	具体的な内容と成果
個々の興味や心の動きに気付き関わりを工夫する。	A	子どもが主体的に遊び、さらに興味関心のある遊びが発展できるよう関わりを工夫した。子ども自身が自己発揮できるよう、待つ、見守る姿勢を心掛け、必要に応じて仲立ちをするなど関わり方も工夫した。また、子どもの心の読み取りに重点を置いた園内研修を継続的に行うことで実践へと繋げた。
子どもの姿に合わせた環境構成（保育室・園庭）を整える。	A	子どもの成長に合わせ、子どもたちがやりたい遊びができるよう、その都度環境構成を工夫した。また、子どもが考えて選択出来るような、より子どもの主体性を重んじた環境構成の工夫を今年度は行うことが出来た。
ドキュメンテーションを保護者への見える化だけでなく育ちの記録として活用する。	B	子どもが興味関心を持った事や行事などをドキュメンテーションで発信し、保護者への見える化を図った。昨年度より子どもの様子をタイムリーに発信できた学年もあり、より子どもの様子を伝えられた。しかし、保育者がドキュメンテーションを育ちの記録として活用するまでは至らなかった。

○学校評価の具体的な計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>子どもの思いを推察しながら、クラスや個々に合わせた援助や環境構成の工夫に努めた。子どもが自己発揮できたことで、自信をもって過ごす様子を感じることが出来た。ドキュメンテーションでは昨年度よりタイムリーに発信でき、保護者への見える化が出来たものの、子どもの成長を継続的に発信することや、ドキュメンテーションを子どもの育ちの記録として活用していくまでには至らず、来年度の課題として取り組んでいきたい。また、担任が写真を撮影するのが難しい場面もあるので、チームとして取り組む必要がある。</p>

○学校関係者の評価

<p>前年度に続き、生活発表会では、子ども同士の声の掛け合いや日頃の生活の様子が見られ、保護者も安心して見る事が出来た。小学校では見る事が出来ない姿なので、このやり方を継続してほしい。コロナ禍を経験して行事においてシンプルにできるもの、しなくてもいいもの等学べたので今後、園づくりに活かしてほしい。</p> <p>父母の会について、講演内容が良いものが多いので、より保護者が参加することを願う。</p> <p>生活アンケートの中で、「楽しんで通園しているか」「自主的に遊んでいるか」の項目で「はい」と回答した保護者が100%だった。その結果においては、職員がにこやかで、認めが多いことが子どもの安心に繋がっていると感じる。</p> <p>発達段階に幅がある年齢の子ども達なので、一つのものに取り組むには工夫が必要である。職員の努力を感じる。</p>
--

学校評価委員

立石 由紀子

久松 智恵

寺見 和秀

北田 美紀